



**株式会社セブン&アイ・ホールディングス**  
**2015年2月期 第2四半期決算説明会**

2014年10月3日  
株式会社セブン&アイ・ホールディングス

**2015年2月期 第2四半期 業績説明**

## 連結決算概要

- 営業収益、営業利益、当期純利益は過去最高を更新

	14年度 第2四半期			
	金額	前期比	前期増減	計画差異
グループ売上*	50,829億円	107.0%	+3,304億円	+329億円
営業収益	30,044億円	107.0%	+1,967億円	▲355億円
営業利益	1,672億円	101.6%	+26億円	▲27億円
当期純利益	839億円	100.7%	+5億円	+4億円

PL為替換算レート: U.S.\$1=102.46円(前年差: 6.73円 円安)

\*グループ売上: セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.におけるチェーン全店売上を含めた数値

 セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

1

## 事業セグメント別営業利益

- 主にコンビニエンスストア事業と金融事業により増益を達成

	14年度 第2四半期		
	金額	前期比	前期増減
連結営業利益	1,672億円	101.6%	+26億円
コンビニエンスストア	1,368億円	106.3%	+81億円
スーパーストア	91億円	77.8%	▲26億円
百貨店	▲0.9億円	—	+4億円
フードサービス	0.2億円	3.0%	▲8億円
金融関連	240億円	105.0%	+11億円
通信販売	▲30億円	—	▲30億円
その他	18億円	134.5%	+4億円

 セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

## 主要事業会社の営業利益

●セブン-イレブン・ジャパンと7-Eleven, Inc.は過去最高益を達成

	14年度 第2四半期				増減の主な要因
	金額	前期比	前期増減	既存店伸び率	
セブン-イレブン・ジャパン	1,158億円	104.0%	+45億円	+2.6%	既存店売上伸長と荒利率改善
7-Eleven, Inc.	239億円	115.5%	+32億円	+1.6%	既存店売上伸長
イトーヨーカ堂	6億円	25.2%	▲19億円	▲4.1%	天候不順による既存店売上のマイナス
ヨークベニマル(LF <sup>*1</sup> 込み)	85億円	100.0%	±0億円	+0.8% <sup>*2</sup>	既存店売上伸長とライフフーズの好調
そごう・西武	17億円	111.3%	+1億円	+0.6%	3月の駆け込み需要と8月の売上好調

\*1LF:ライフフーズの略称(主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売している子会社)

\*2 既存店伸び率はヨークベニマル単体の数値

 セブン&アイ HLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

## 7-Eleven, Inc.

●四半期別営業利益実績

	1Q		2Q		上期	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
14年度 営業利益(千ドル)	55,561	90.2%	178,620	114.9%	234,181	107.9%
14年度 営業利益(百万円)	5,710	100.2%	18,284	121.2%	23,994	115.5%
13年度 米国内既存店 商品売上伸び率	+0.7%		+2.3%		+1.6%	
14年度 米国内既存店 商品売上伸び率	+1.0%		+2.1%		+1.6%	

1Q: 大寒波の影響と昨年の有給休暇制度変更に伴う経費減(約13百万ドル)の反動

2Q: ホットフードを中心としたファスト・フードの販売好調により二桁増益

 セブン&アイ HLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

4

## 連結業績計画

- 当初計画は連結、セグメントとも据え置き 行為を徹底し達成を目指す

	通期計画	
	金額	前期比
グループ売上	102,000億円	106.3%
営業収益	61,300億円	108.8%
営業利益	3,560億円	104.8%
当期純利益	1,840億円	104.7%

PL為替換算レート: 14年度予想 102.00円(前年差:4.27円 円安)

## 【ご参考】 主要事業会社の決算概況

## コンビニエンスストア事業:実績①

セブン-イレブン・ジャパン



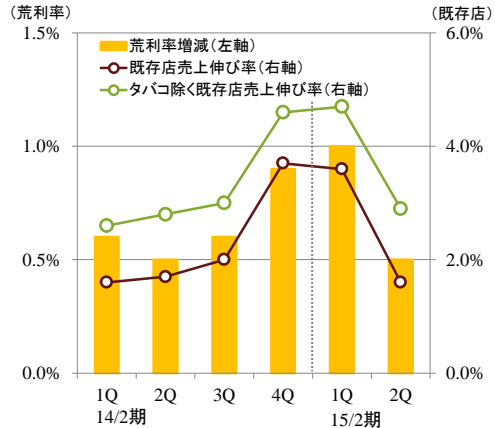
消費税増税・不安定な天候に対する商品政策が奏功し、4年連続で過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	1,158億円	104.0% +45億円
既存店売上伸び率	+2.6%	
商品荒利率	31.4%	+0.8%

### 概況

- ・既存店売上: オリジナル商品や『セブンプレミアム』のリニューアルが奏功し、伸長
- ・荒利率: セブンカフェの好調継続(+0.3%)とタバコの影響(+0.3%)等により大幅に改善
- ・営業利益: 夏場の天候不順がありながらも過去最高益

### ■ 四半期別の推移



セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

1

## コンビニエンスストア事業:実績②

7-Eleven, Inc.



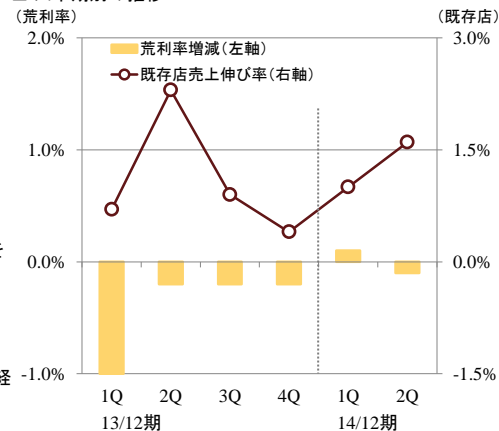
ファスト・フードの販売好調により米国内既存店商品売上は伸長し、営業利益は二桁増益

	実績	前期比
営業利益	239億円	115.5% +32億円
米国内既存店商品売上伸び率(ドルベース)	+1.6%	
商品荒利率	34.6%	▲0.1%

### 概況

- ・商品売上: 1Qの大寒波の影響がありながら、ホットフードを中心としたファスト・フードの売上が牽引しプラスで推移
- ・荒利率: タバコの競争力ある価格設定等によりマイナス
- ・営業利益: 昨年1Qに特殊与件(有給休暇制度変更に伴う経費減)がありながらも、既存店商品売上の伸長により二桁増益

### ■ 四半期別の推移



セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

## スーパーストア事業:実績①

イトーヨーカ堂



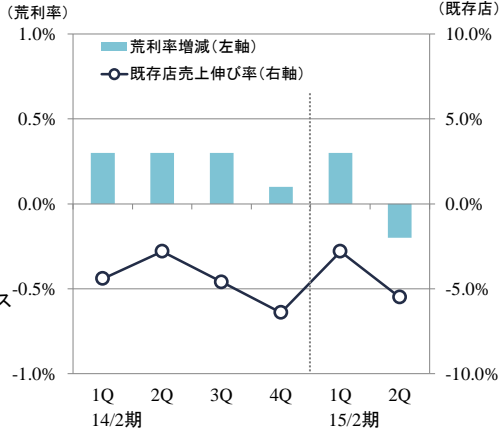
主に既存店売上のマイナスにより減益

	実績	前期比
営業利益	6億円	25.2% ▲19億円
既存店売上伸び率	▲4.1%	
商品荒利率	29.9%	+0.1%

### 概況

- 既存店売上: 駆け込み需要の反動と夏場の天候不順の影響、自営売場面積の適性化(テナント化)によりマイナス
- 荒利率: 衣料の値下げロスが増加したものの、食品の改善により+0.1%
- 販管費: 電気料の単価上昇に伴う増加はあったものの、地代家賃と人件費の減少により、前期比98.9%

### ■ 四半期別の推移



セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

## スーパーストア事業:実績②

ヨークベニマル



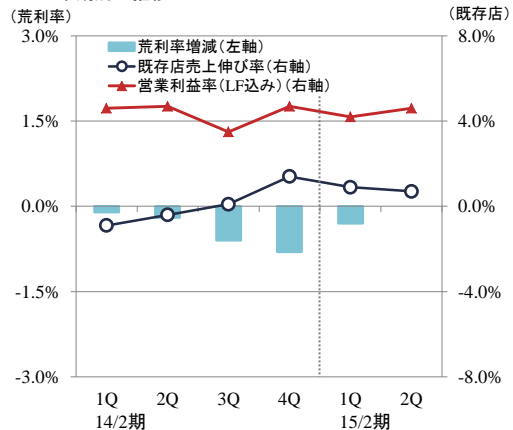
既存店売上はプラスとなり、営業利益は計画線で推移

	実績	前期比
営業利益	61億円	94.3% ▲3億円
既存店売上伸び率	+0.8%	
商品荒利率	25.3%	▲0.1%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	85億円	100.0%

### 概況

- 既存店売上: 駆け込み需要の反動があったものの、生鮮食品が好調に推移しプラス
- 荒利率: 衣料・住居はマイナスも、食品は前年並みを確保
- 販管費: 電気料の単価上昇に伴う増加と新店の増加(13/8期比: +9店)により、前期比106.9%

### ■ 四半期別の推移



\*ライフフーズは、ヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売している子会社

セブン&アイHLDGS.

Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

4

## 百貨店事業:実績

そごう・西武



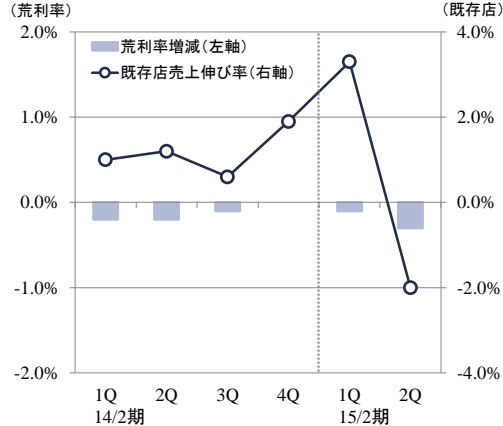
増税前の駆け込み需要と秋物展開の早期化により、荒利率のマイナスを吸収し増益確保

	実績	前期比
営業利益	17億円	111.3% +1億円
既存店売上伸び率	+0.6%	
商品荒利率	24.7%	▲0.2%

### 概況

- ・既存店売上: 増税前の駆け込み需要に伴う高額品の売上伸長と8月下旬の気温低下に合わせた秋物展開が奏功し、基幹店を中心に伸長
- ・荒利率: 低荒利率の高額品売上や食品売上伸長の影響によりややマイナス
- ・販管費: 食品でのポイント付与開始に伴う宣伝装飾費等の増加はあったものの前期比99.8%と抑制

■ 四半期別の推移



本資料には、当社の本資料発表日時点における計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご理解いただきますようお願い致します。